

高温に伴う農作物管理対策について

気象災害対策 R 6 - 2
令和 6 年 5 月 2 日
農林総合研究センター

I 気象概況

新潟地方気象台発表の「向こう 1 か月の天候の見通し（4 / 27 ~ 5 / 26）」によると気温は高いと予想されています。また、4 月 30 日発表の「高温に関する早期天候情報」によると、気温は特に 5 月 10 日頃からかなり高いと予想されています。

今後の気象情報に注意し、農作物の適切な管理に努めてください。

II 農作物の管理対策

1 水稻

(1) 育苗時の温度管理

4 月の気温が高く経過したことから、一部のハウスでは軟弱徒長苗が発生している。このため、ハウス内の温度管理には十分注意し、温度が上がり過ぎないように留意する。

硬化期は日中のハウス内温度を 15 ~ 20℃ に保つよう換気を行う。田植え時期が近づいたら夜間も開放して外気に慣らし、健苗づくりに努める。

(2) 病害などの発生防止

細菌病やムレ苗等の発生が懸念されるので、温度管理および水管理に注意するとともに、苗の見回りを徹底する。

(3) V 溝直播の出芽促進

種種後に晴天が続く圃場が乾きすぎている場合は、走り水を実施し、出芽・苗立を促す（圃場に水が行き渡ったら直ちに排水する）。

2 麦類

(1) 適期収穫

5 月の気温が高いと収穫時期が早まるので、成熟状況を随時確認するとともに、収穫機械や乾燥調製施設の稼働計画を再検討する等、計画的かつ効率的な収穫作業に努める。

2 野菜・花き

(1) トンネル栽培の温度管理

高温で葉焼けが発生するため、すそ換気や穴開け換気によって温度調整を行う。なお、密閉状態から初めて換気を開始する場合は、急激な湿度の低下による萎れが発生するため、事前にかん水を行う。

穴開け換気の場合は、最低気温の上昇に伴い徐々に換気穴を増やす。

(2) 施設栽培の水管理

施設内が高温となり急激に湿度が低下する場合は、根の水分吸収が追いつかず、萎れやカルシウム等の要素欠乏症の発生が懸念されるため、事前に通路散水により空中湿度を確保するとともに、カルシウム入り液肥の葉面散布を行う。

(3) 害虫の防除

害虫の発生が早まる可能性があるため、病虫害発生予察情報に留意し適切な防除を行う。

3 果樹

(1) ハウス内の温度管理

ぶどう、いちじく等のハウス栽培では、高温で生育障害が発生するので、ハウス内が30℃以上にならないよう換気する。

なお、ぶどうでは、高温・乾燥状態で第1回目ジベレリン処理を行うと種子混入や花振るいが発生するので、適切な温湿度管理に努める。

(2) かん水管理

高温・乾燥時には、樹体からの水分蒸散が激しくなるので、降水量が少なく高温・乾燥状態が続く場合はかん水を行う。かん水量の目安は、5～7日間隔で1回20mm程度とする。

(3) 適期の結果調節作業

日本なし、りんご、もも等では、高温で生育が早まるので、それに応じて摘果作業を早める等により、果実の初期肥大を確保する。

また、これから開花期を迎えるぶどう、かき等では、花穂の整形、摘らい等の作業を適期に行う。

(4) 病虫害防除

① 高温により、ケムシ類やカメムシ類等害虫の発生が早まると予想されるので、園内の発生状況をよく観察し、初期防除に努める。

② 高温・乾燥時には葉害が発生しやすくなるため、防除の際は散布濃度に注意し、朝又は夕方涼しい時間帯に行う。

気象情報

高温に関する早期天候情報（北陸地方）

令和6年4月30日14時30分 新潟地方気象台 発表

要早期警戒（気温）

警戒期間 5月10日頃から

対象地域 北陸地方

警戒事項 **かなりの高温（5日平均地域平年差+2.1℃以上）**

確率 **30%以上**

北陸地方の気温は、5月10日頃からは、暖かい空気が流れ込みやすいためかなり高くなる可能性があります。

農作物の管理等に注意してください。また、今後の気象情報等に留意してください。